

問1 日本の気候区分のうち、周囲を山地に囲まれた内陸部に位置し、年間を通じて降水量が少なく、夏と冬の気温差（年較差）や一日の気温差（日較差）が大きい特徴を持つ気候を何といますか。 (2019年 佐賀公立入試 類似)

1. 中央高地の気候 2. 日本海側の気候 3. 太平洋側の気候 4. 瀬戸内の気候

問2 日本の中部地方から関東地方にかけて広がる地質構造であるフォッサマグナの特徴について説明したものととして、最も適切なものはどれですか。なお、この地形は日本列島を南北に分断するように位置しています。 (2026年 愛媛公立入試 類似)

1. 日本アルプスの東側に位置する、古い地層の上に新しい地層が厚く堆積した巨大な溝状の地形。 2. 西日本を東西に貫き、九州から関東まで続く日本最大級の断層帯。 3. 太平洋プレートが陸のプレートの下に沈み込むことで形成された、水深6000メートルを超える深い溝。 4. ユーラシア大陸から吹き付ける季節風の影響を強く受ける、標高3000メートル級の山々が連なる山脈。

問3 日本各地の気候について、長野県長野市と沖縄県那覇市の統計を比較したとき、那覇市の気候の特徴を説明したものととして最も適切なものはどれですか。なお、那覇市は一年を通して月平均気温が15度を上回り、長野市で見られるような冬の氷点下への落ち込みがありません。 (2024年 長野県公立入試 類似)

1. 一年を通じて気温が高く、夏と冬の気温差を示す年較差が小さい。 2. 内陸部に位置するため夏と冬の寒暖差が激しく、年較差が大きい。 3. 季節風の影響により、冬の降水量が夏の降水量を大きく上回る。 4. 梅雨や台風の影響で夏に降水が集中し、冬の降水量はほぼゼロになる。

問4 河口付近の低地において、人口集中地区（DID）が形成されている場合の地理的リスクと都市構造の関係について述べた文章として、正しいものはどれですか。 (2024年 福井公立入試 類似)

1. 多くの人が居住する人口集中地区が浸水リスクの高い低地に位置しているため、災害が発生した際の人的・経済的被害が大きくなる懸念がある。 2. 人口集中地区は一般的に標高の高い安定した岩盤の上に形成されるため、河口付近であっても洪水対策を強化する必要はない。 3. 河口付近の平坦な土地は排水設備を整えやすいため、人口が集中していても浸水被害を完全に防ぐことが可能であり、災害リスクは無視できる。 4. 低地は地価が安いいため人口が密集することはなく、人口集中地区は例外なく内陸の山間部や扇状地の上部に形成される。

問5 山地から平地へと川が流れ出る場所に土砂が堆積してできた扇状地では、その土地の性質を反映した利用がなされています。扇状地の多くが、水田よりも果樹園や畑として利用されてきた理由を、堆積した土砂の性質に着目して説明したものを選びなさい。 (2025年 大阪公立入試 類似)

1. 堆積した土砂が細かく固まっているため、根が深く張りやすいため 2. 土砂に肥料分が多く含まれており、果実の糖度を高めるから 3. 土砂の隙間が大きく水はけが良いため、水を溜めておくのが難しいから 4. 周囲の地形に比べて標高が低く、冷たい水が溜まりやすいから

問6 日本列島の周辺を流れる海流のうち、東北地方の沖合で千島海流（親潮）とぶつかって「潮目（潮境）」を形成し、豊かな漁場を作る要因となっている暖流はどれですか。 (2025年 静岡公立入試 類似)

1. 対馬海流 2. リマン海流 3. 日本海流（黒潮） 4. 北大西洋海流

問7 自然災害が発生した際に、被害が及ぶと予想される区域や程度、さらには避難場所や避難経路などの情報を地図上にまとめたものを何といますか。 (2020年 佐賀公立入試 類似)

1. ハザードマップ 2. 等高線地形図 3. 土地利用図 4. 都市計画図

問8 三重県の志摩半島や福井県の若狭湾周辺に見られる、かつての山地の谷が海に沈むことで形成された、複雑に入り組んだ海岸線の名称を何といますか。 (2018年 熊本県公立入試 類似)

1. リアス海岸 2. 砂州 3. 海岸段丘 4. 干拓地

答え合わせ・解説

問1	答え 1 中央高地の気候	中央高地は周囲を高い山々に囲まれているため、季節風が運んでくる湿った空気が入り込みにくく、年間を通じて降水量が少なくなるのが特徴です。また、海から離れた内陸に位置するため、比熱の小さい陸地の影響を強く受け、気温の変化が激しくなります。
問2	答え 1 日本アルプスの東側に位置する、古い地層の上に新しい地層が厚く堆積した巨大な溝状の地形。	フォッサマグナは日本列島の中央部に位置する巨大な溝状の構造です。かつて海だったこの溝に、新しい時代の火山噴出物や土砂が厚く堆積して現在の地形が作られました。選択肢にある中央構造線は西日本を東西に走る断層であり、日本海溝は海底の地形、日本アルプスは険しい山脈を指すため、地質的な「溝」であるフォッサマグナの説明とは異なります。
問3	答え 1 一年を通じて気温が高く、夏と冬の気温差を示す年較差が小さい。	沖縄県などの南西諸島は低緯度に位置し、周囲を暖かい海に囲まれているため、一年を通じて温暖で気温の変化が穏やかです。そのため、最暖月と最寒月の差である「年較差」が、冬の冷え込みが厳しい長野県などの内陸部と比較して小さくなるのが特徴です。また、湿った空気の影響を受けやすく、年間を通じて一定の降水量が見られる点も、冬に乾燥する内陸部や太平洋側の気候とは異なります。
問4	答え 1 多くの人々が居住する人口集中地区が浸水リスクの高い低地に位置しているため、災害が発生した際の人的・経済的被害が大きくなる懸念がある。	日本の多くの都市は、交通の便や平坦な土地の利用しやすさから、河口付近の平野部を中心に発展してきました。その結果、本来は自然災害（浸水）のリスクが高い場所と、建物や人口が密集する「人口集中地区（DID）」が重なっているという状況が生じています。このような都市構造では、ひとたび洪水が発生すると被害が甚大になるため、ハザードマップの確認や避難体制の整備が極めて重要となります。
問5	答え 3 土砂の隙間が大きく水はけが良いため、水を溜めておくのが難しいから	扇状地などの堆積地形は、粒の大きい砂や礫が積もってできているため「水はけ」が非常に良いのが特徴です。水田を作るには地表に水を溜める必要がありますが、水がすぐに地下へ浸透してしまう扇状地では水田開発が困難でした。一方で、水はけの良さを好むブドウやモモなどの果樹栽培や畑作には適していたため、現在のような土地利用が広がりました。
問6	答え 3 日本海流（黒潮）	東北地方の三陸沖では、南からの暖流である黒潮（日本海流）と、北からの寒流である親潮（千島海流）がぶつかり合います。ここにはプランクトンが豊富に集まるため、世界的な好漁場となっています。
問7	答え 1 ハザードマップ	自然災害による被害を最小限に抑える「減災」を目的に作成される。浸水想定区域や土砂災害警戒区域などの予測情報と、避難所などの防災情報を住民に周知するために、多くの自治体で作成・配布されている。
問8	答え 1 リアス海岸	起伏の多い山地が沈水したり、海面が上昇したりすることで、谷の部分に海水が入り込んで形成される地形です。近畿地方付近では志摩半島や若狭湾が代表的であり、他にも東北地方の三陸海岸南部などが有名です。